«桃» 1973年 立川準コレクション

生誕 130 年 多摩愛の近代画家・小島善太郎
－芸術が与えた人生×自然に反映する人格

小島善太郎展

2022年 5月28日(土) － 7月30日(土)

主催：帝京大学文学部史学科 岡部昌幸ゼミ
（美術史・文化遺産コース実習・演習）

開館時間　9:00－17:00(16:30最終入館)
開館日　月曜日－土曜日
休館日　日曜日・祝日・臨時休館日
入館料　無料

※公共交通機関をご利用ください。高幡不動駅・聖蹟桜ヶ丘駅・多摩センター駅から「帝京大学構内」行きのバスが便利です。
※車いすでご来館予定の方は事前にご連絡ください。

帝京大学総合博物館
Teikyo University Museum
八王子キャンパス　ソラティオスクエア B1F
東京都八王子市大塚359番地　TEL／042－678－3675

«桃の里 山梨県一の宮» 1984年 日野市立小島善太郎記念館

«李朝大皿の桃» 1972年 日野市立小島善太郎記念館

«敦子像» 1983年
日野市立小島善太郎記念館

小島善太郎展

生誕130年
多摩愛の近代画家・小島善太郎
―芸術が与えた人生×自然に反映する人格

2022
5/28(土) → 7/30(土)

小島善太郎は、明治25年(1892年)に現在の新宿区に生まれました。太平洋画会研究所、葵橋洋画研究所にて絵を学び、その後フランスへと留学しました。そこで、佐伯祐三や前田寛治らと流派を越えた1930年協会を結成し、腕を磨きます。帰国後は昭和の洋画・前衛美術運動の軸として里見勝蔵、児島善三郎、林武らと今日まで続く独立美術協会を創設。日本の近代美術史に大きな足跡を残し、昭和59年(1984年)に亡くなるまで美術界を牽引し続けました。また、風景や花など自然を愛し、昭和7年(1932年)からは八王子市に移り住み、絵の指導者として、広く多摩の美術界、美術教育(大学教育)に関わるなど、地域との繋がりを大切に活動しました。晩年は日野市にて過ごし、現在そのアトリエは小島善太郎記念館として公開されています。

本展は、日野市・八王子市・多摩市など帝京大学と周辺の地域連携による地域文化の顕彰と普及、さらに大学から小学校、幼稚園までの美術館教育、ゼミ主催企画による地域の美術館との博学連携を目的としており、本年生誕130周年を迎える小島善太郎が、日本の芸術界に新風を巻き起こしたその生涯を、新発見、初出品の作品・資料5点を含む絵画や素描約40点で追い、さらに彼自身の絵を描く源である貴重なノートやパレット等もあわせて紹介します。本展が自然、美、人間を愛し、大正・昭和の激動の時代を生きた画家小島善太郎の生涯とその芸術を、次世代に継承していく一助となれば幸いです。

記念講演会

・「理想郷多摩
―小島善太郎の「自然と人生」」
6月25日(土) 15:00 − 16:30
岡部昌幸(帝京大学文学部史学科教授)

・「小島善太郎の生涯と芸術」
7月16日(土) 15:00 − 16:30
川俣高人(八王子市夢美術館館長)

・帝京大学文学部史学科学生による
ギャラリー・トーク
6月18日(土) 15:00 − 16:00
7月30日(土) 15:00 − 16:00

・記念講演、ギャラリートークに
事前予約は必要ありません
・各回、総合博物館入口集合
(講演会のみ、30分前より受付開始)

«北信濃の桃» 1976年 日野市立小島善太郎記念館
«愛猫ミチル(2世)» 1975年 日野市立小島善太郎記念館

«丹木の早春» 1947年 日野市立小島善太郎記念館